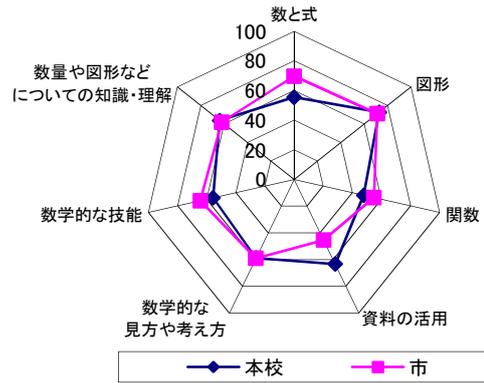


# 宇都宮市立国本中学校 第2学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	55.4	69.7
	図形	72.8	71.2
	関数	47.8	54.7
	資料の活用	63.4	45.4
観点別	数学的な見方や考え方	58.8	59.1
	数学的な技能	55.7	64.4
	数量や図形などについての知識・理解	63.8	62.1



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・市の平均を大きく下回っており、14.3ポイントの開きがある。同類項をまとめる基本的な計算が市の平均を26.4ポイント下回っている状況から見て、基礎・基本の定着が不十分であるといえる。	・数と式の領域については、春休み課題により家庭学習の充実を図る必要がある。新年度を迎える前に基礎・基本の確認を行うことで、3学年の内容へ円滑に接続していきたい。
図形	・市の平均を1.6ポイント上回っている。小問別に見るとそれぞれ70～85%の正答率であるが、球の体積を求める問題については市の平均を13.4ポイント上回ってはいるものの55%と低い。	・定着度が低いものについては、授業の中でその内容に触れる機会を設けるなどして復習させたい。
関数	・市の平均を6.9ポイント下回っている。1次関数の式からグラフの傾きと切片を読み取る問題やグラフをかく問題の正答率が65～75%なのに対し、途中の計算を必要とする問題の正答率は50%以下と低い。	・変数 $x$ , $y$ の関数関係を表現する式、表、グラフの関連を再確認し、計算を必要とする問題の反復練習を行いたい。3学年で関数を学習する際にその機会はあるが、半年ほど先になってしまうため、家庭学習において自主的に行ってもらいたい。
資料の活用	・市の平均を18.0ポイント上回っている。度数、相対度数、中央値等の理解に比べ、近似値についての理解が不十分である。	・「資料の整理と活用」の単元は1学年の学習内容で、2学年、3学年の学習内容との直接的なつながりは他の領域と比べて非常に少ない。授業における復習の機会が少ない分、家庭学習における復習が重要である。